

ここが
ポイント

田植同時処理での 上手な使い方

田植前の圃場準備

- 畦畔や水尻から水漏れが無いか確認してください。
- 代掻きを丁寧に行い、田面の高低差をできるだけ無くします。
- 麦ワラなど前作の残渣を取り除きます。
- 田植まで田面が乾かないように適度な水深を保ちます。

田面が凹んだ所は植付けが浅くなり、浅植えや浮き苗となりがちです。逆に田面が盛り上がり水面から出たりしていると薬剤の拡散が悪くなったり、土が堅くしまって植え穴の戻りが悪くなります。



畦塗りをしっかりして漏水を防ぎましょう



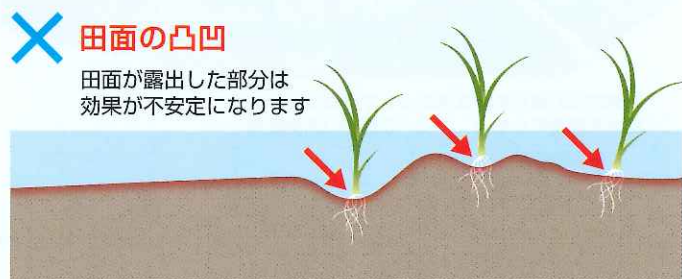
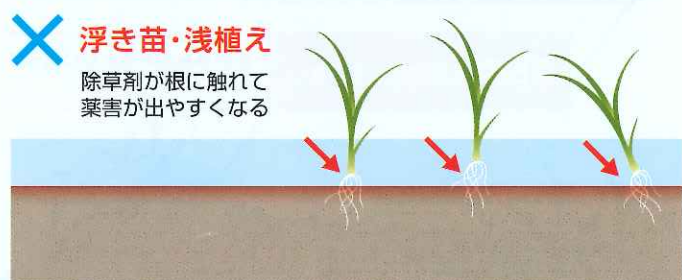
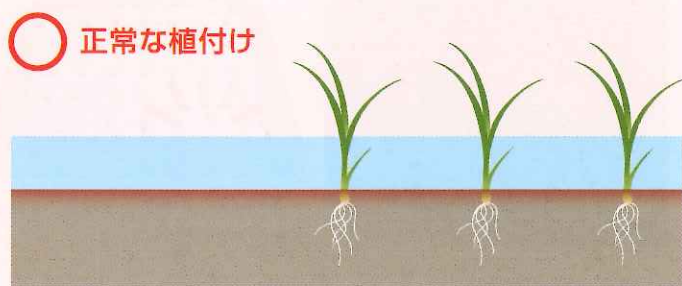
田面が露出するような高低差があると拡散しません



凸凹があると拡散不良になります



田面露出した部分から生える雑草



田植同時散布機の調整

- 「田植同時処理」では、田植えをしながら除草剤散布を行うため、散布の状態やホッパー内の薬剤残量を散布と同時に確認することができません。したがって事前に適切な散布量(1キロ粒剤=1kg/10a)の為のダイヤル調整等をしっかり行う事が重要です。「ダイヤル設定目安表」はあくまで目安です。実際に計量して規定量を比較し、所定の量が出るよう微調整します。



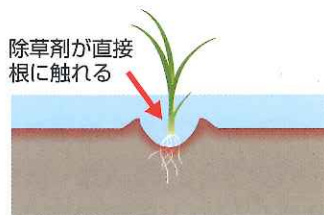
丁寧な田植

- ヒタヒタ水状態で田植をします。田植時に完全落水状態にすると植え穴の土の戻りが悪くなり根が露出して薬剤に直接接触し、**薬害が出やすくなります**。また深水にすると浮き苗が出やすくなります。
- 適切な田植速度と植付け深度を保ち、浅植えや浮き苗が出ないようにします。
- 補植は行いません。除草剤処理後の補植はせっかくの処理層を壊してしまいますし、補植苗の根が薬剤に触れて**薬害が出やすくなります**。



植え穴の戻りが悪いと薬害が出やすい

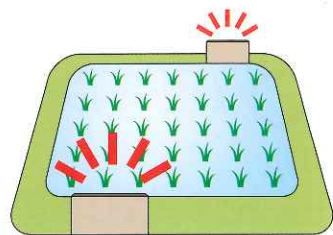
浅植えや浮き苗、植え穴の戻り不良は、薬剤が直接イネの根に当たって多量に吸収されやすくなり、**薬害が強く出る恐れがあります**。



除草剤が直接根に触れる

田植後の水管理

- 田植後は、できるだけ早く入水し、オーバーフローが起こらないように適切に止水して下さい。
- 入水の際、水勢が強すぎると除草成分が流され、水尻側に偏るリスクもあります。
- 水勢が強すぎる場合、水口付近に水勢を弱める緩衝物を設置して下さい。
- 止水後も畦畔等からの漏水が無いかなどを確認して下さい。
- 田植(散布)、止水後、7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。



入水が終わったら水口を開め、水尻のチェックを忘れずに!

せっかく処理した薬剤が田から流亡しないようにすることが効果安定の秘訣です。



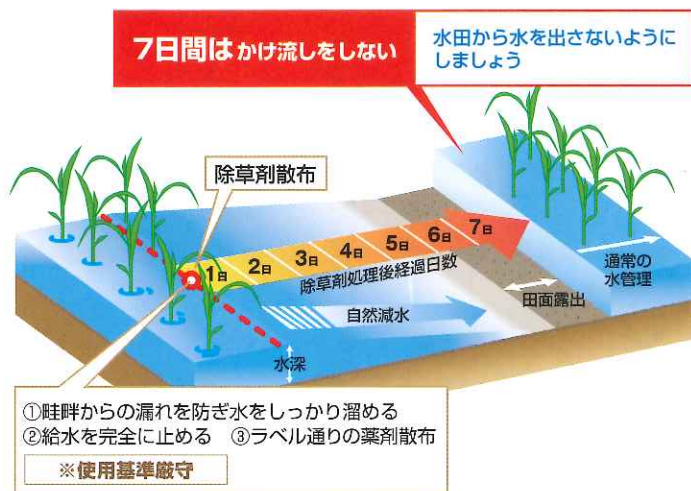
散布後、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち田面を露出させたり水を切らしたりしないようにし、落水、かけ流しはしないで下さい。



かけ流しは効果不良の原因です

「除草剤処理後7日間給水しない止水管理」の模式図

(日本植物調節剤研究協会「止水管理」パンフレットより引用)



こんな場合は田植同時処理では使わないで下さい。

- 軟弱な苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、及び砂質土壌で漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)では薬害の恐れがあるので使用を避けて下さい。
- 激しい豪雨が予想されるときは除草効果が低下する恐れがあるので使用を控えて下さい。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。●小児の手の届く所には置かないで下さい。●空袋、空容器は圃場等に放置せず適切に処理して下さい。